

臨界モード制御

力率改善コントローラ IC

BD7695FJ BD7696FJ

概要

力率改善コンバータ(Power Factor Correction: PFC)であるBD7695FJ / BD7696FJは力率改善が必要な製品すべてに最適なシステムを供給します。

PFC部は臨界モード(BCM)を採用し、ゼロ電流検出(ZCD)によりスイッチング損失低減とノイズ低減が可能です。全高調波歪(THD)を低くする回路を内蔵しているためIEC61000-3-2 Class-Cに対応できます。

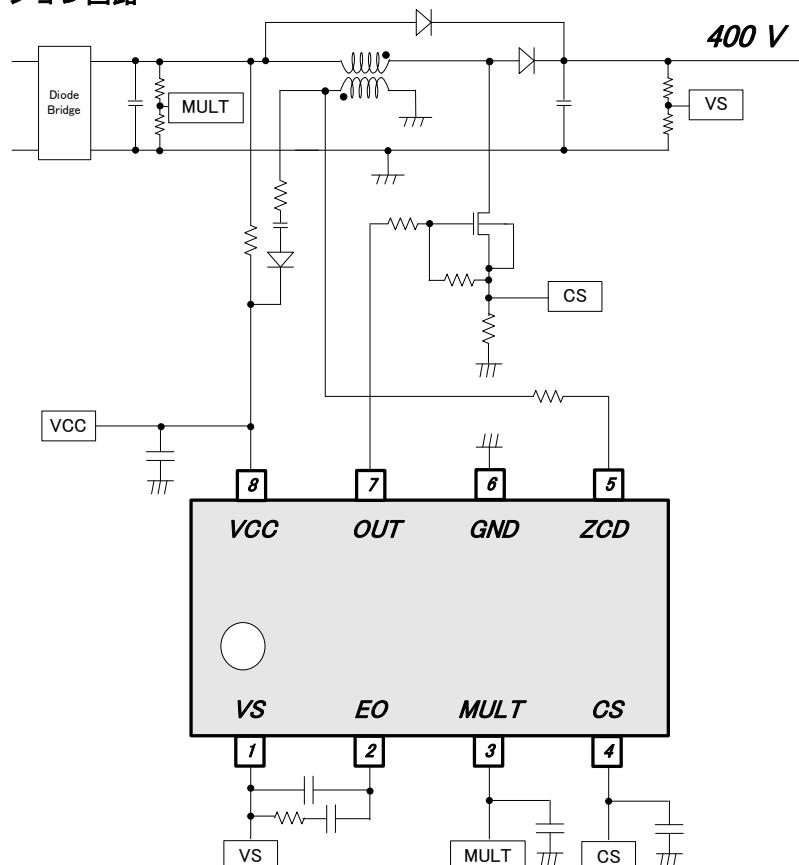
特長

- 臨界モードPFC
- 低THD回路内蔵
- 低消費電力
- VCC端子のUVLO機能
- ZCD補助巻線検知
- VS端子によるStatic OVP機能
- エラーインプ入力ショート保護
- 安定したMOSFETゲートドライブ
- ソフトスタート

用途

- 照明器具、ACアダプタ、TV、冷蔵庫、他

基本アプリケーション回路



○製品構造：シリコンを主材料とした半導体集積回路 ○耐放射線設計はしておりません

www.rohm.co.jp

© 2021 ROHM Co., Ltd. All rights reserved.

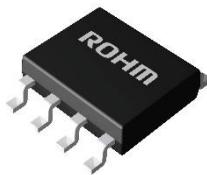
TSZ22111 • 14 • 001

重要特性

- 動作電源電圧範囲： 12 V ~ 38 V
- 動作電流： 0.60 mA (Typ)
- 動作温度範囲： -40 °C ~ +105 °C

パッケージ

SOP-8

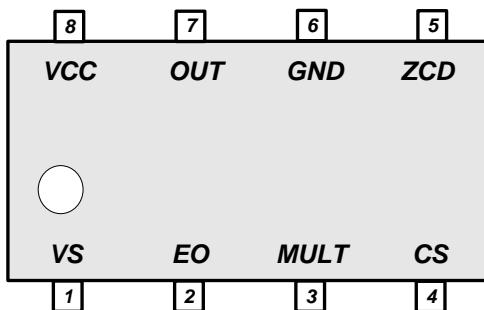


ラインアップ

Product name	Brown Out
BD7695FJ-E2	-
BD7696FJ-E2	○

端子配置図

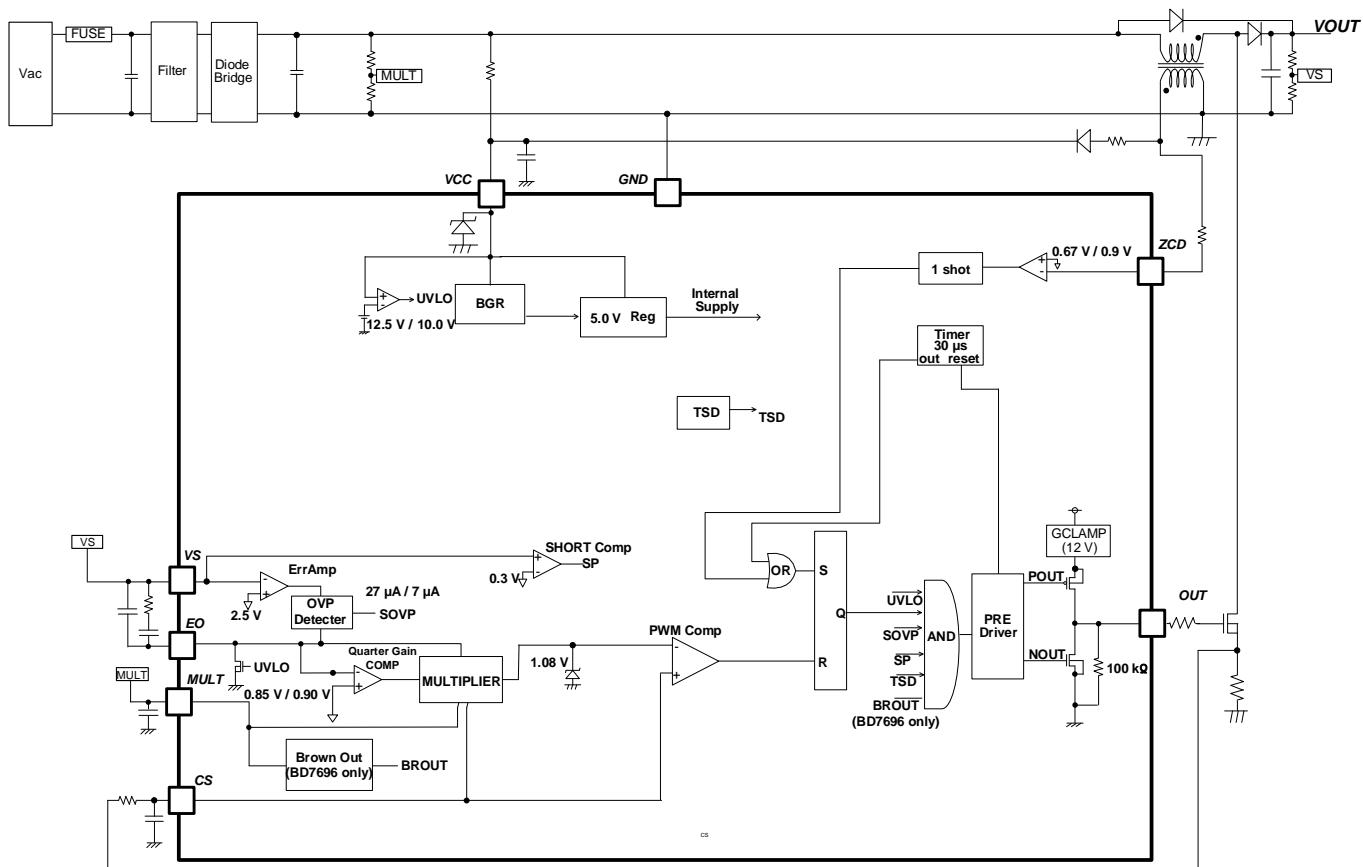
(TOP VIEW)



端子説明

端子番号	端子名	I/O	機能		ESD Diode	
			VCC	GND	VCC	GND
1	VS	I	フィードバック信号入力端子	-	○	
2	EO	O	エラーインピーダンス出力端子	-	○	
3	MULT	I	Multiplier 入力端子	-	○	
4	CS	I	過電流検出端子	-	○	
5	ZCD	I	ゼロ電流検出端子	-	○	
6	GND	-	GND 端子	○	-	
7	OUT	O	外付け MOSFET ドライバ端子	-	○	
8	VCC	I	電源入力端子	-	○	

ブロック図



各ブロック動作説明

1 VCC 端子保護機能

本 IC には VCC 端子の低電圧保護機能 VCC UVLO (Under Voltage Lock Out) を内蔵しています。

VCC 電圧が低下時にスイッチングを停止します。

また、VCC 電圧が V_{CC_DIS1} (38 V Typ) 電圧よりも高くなると動作電流を増やし VCC 電圧の上昇を抑えます。VCC 電圧が V_{CC_DIS2} (34 V Typ) 電圧よりも低くなると動作電流は元に戻ります。この機能は起動抵抗によって VCC 電圧が上昇してしまうケースを想定しています。

2 力率改善回路 (PFC: Power Factor Correction) 部

力率改善回路部は臨界モードの電圧制御方式です。

概略動作回路図を Figure 1、スイッチング動作を Figure 2 に示します。

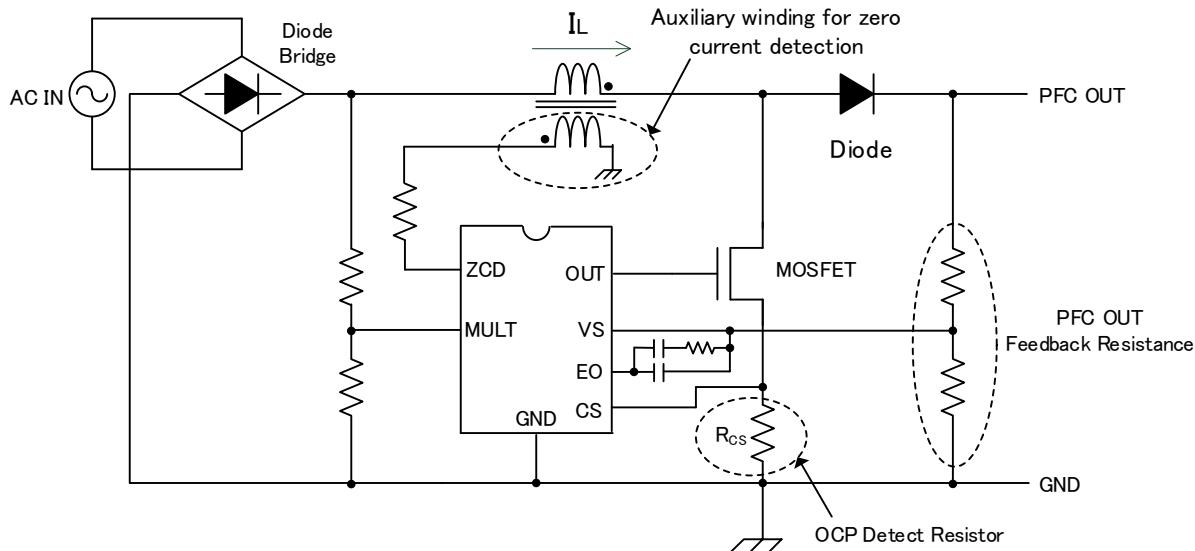


Figure 1. Operation Circuit Outline

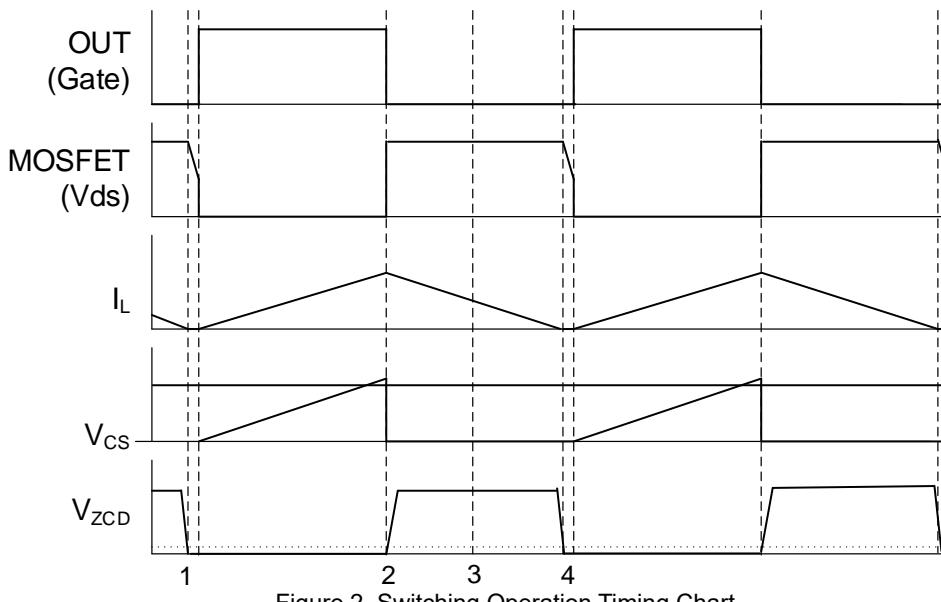


Figure 2. Switching Operation Timing Chart

スイッチング動作

1. MOSFET が ON して I_L が増加します
2. Multiplier 出力電圧と V_{CS} を比較して、 V_{CS} 電圧が高くなった時点で MOSFET を OFF させます
3. MOSFET が OFF して I_L が減少します
4. I_L のゼロ点を ZCD 端子で検出して、MOSFET を ON します

各ブロック動作説明 - 続き

3 ErrAMP について

3.1 GmAMP

VS端子は出力電圧の抵抗分圧点をモニタします。VS端子には、AC周波数 (50 Hz / 60 Hz) のリップル電圧が重畠します。GmAMPでは、このリップル電圧を除去し、除去後の電圧とV_{AMP1}(2.500 V Typ)との誤差に応じて、EOの電圧レベルを制御します。EO端子電圧が高くなると、OUT端子のON幅が広くなります。また、エラーアンプの定数を設定して、AC周波数がEO端子に表れないように調整してください。

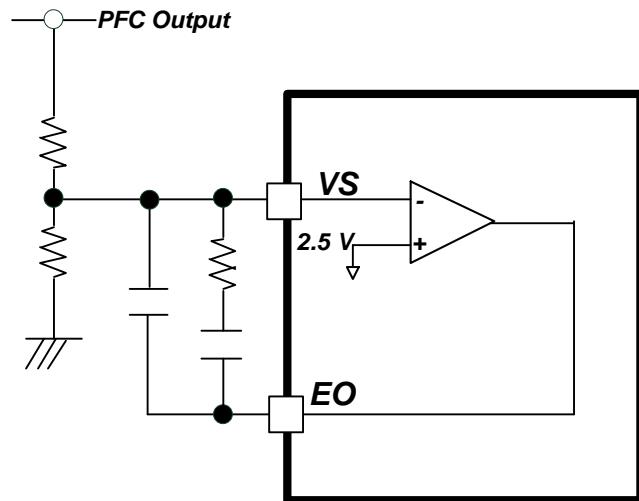


Figure 3. GmAMP Block Diagram

3.2 VS ショート保護機能

VS端子にはショート保護機能が内蔵されています。VS端子電圧 $< V_{SHORT}$ (0.3 V Typ) の状態が t_{VS_SH} (150 μ s Typ) 以上続くとスイッチングを停止します。Figure 4に動作を示します。

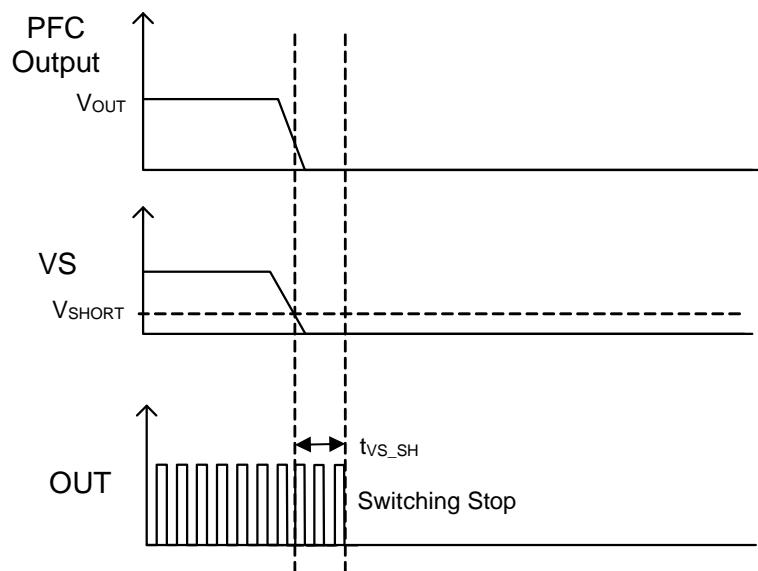


Figure 4. Operation of VS Short Protection

3 ErrAMP について - 続き

3.3 過電圧保護機能 (IOVP)

PFC 出力電圧が過電圧となると保護機能によりスイッチングを停止します。過電圧保護電圧の設定方法を以下に示します。

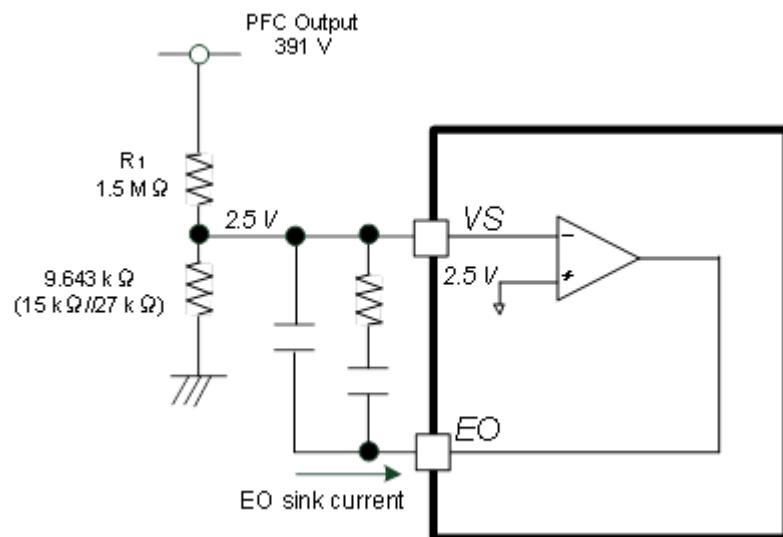


Figure 5. Overvoltage Protection Operation

PFC 出力電圧が 391 V よりも上昇すると EO 端子にシンク電流が流れます。この電流が $I_{OVPDET1}$ (27 μ A Typ) 以上になるとスイッチングを停止し保護をかけます。また、 $I_{OVPDET2}$ (7 μ A Typ) 以下になると保護を解除します。

過電圧保護検出電圧は $I_{OVPDET1} \times R_1 + PFCOUT$ となり、 27μ A \times 1.5 MΩ + 391 V = 431.5 V となります。

解除電圧は $I_{OVPDET2} \times R_1 + PFCOUT$ となり、 7μ A \times 1.5 MΩ + 391 V = 401.5 V となります。

出力電圧が上昇した場合、EO 端子電圧も下がります。

各ブロック動作説明 - 続き

4 ZCD 端子

ゼロ電流検出回路はインダクタ電流 (I_L) のゼロクロスを検知するための機能です (Figure 6、7 参照)。ZCD 端子の電圧が V_{ZCD1} (0.9 V Typ)よりも高くなかったあとに V_{ZCD2} (0.67 V Typ) よりも低くなると、ZCD 出力遅延時間 (t_{ZCD} 260 ns Typ) 経過後 OUT 出力が High になります。

ZCD 電圧が V_{ZCD1} (0.9 V Typ) に満たない場合はリスタートタイマ動作になります。

OUT 出力が Low になり、 t_{REST} (30 μ s Typ) 経過後に OUT が High になります (Figure 8 参照)。

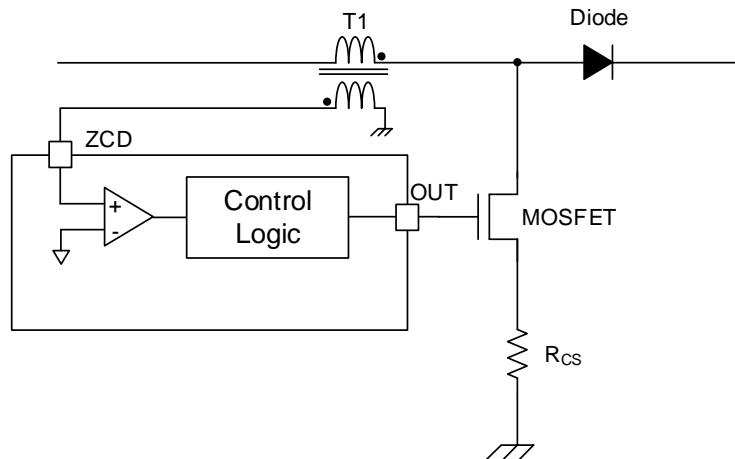


Figure 6. Zero Current Detection Circuit

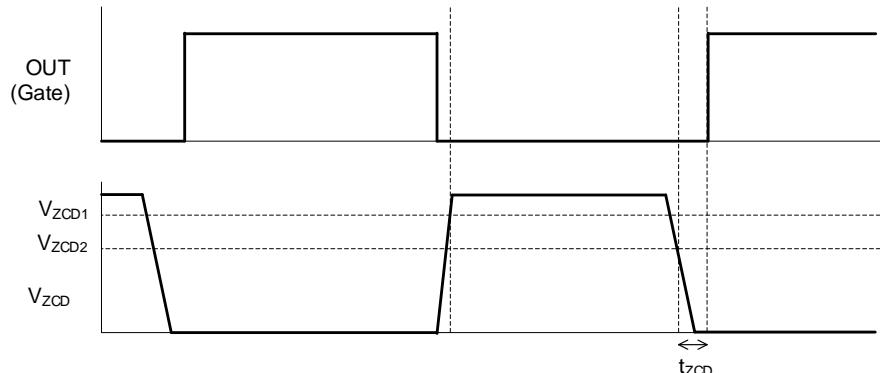


Figure 7. Zero Current Detection

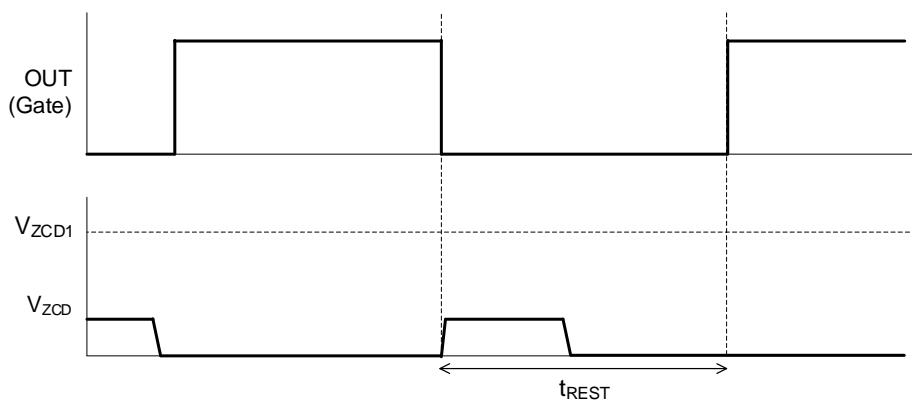


Figure 8. Restart Timer

各ブロック動作説明 - 続き

5 MULTIPLIER

Figure 2 に示した通り、OUT 端子の ON 幅は Multiplier out と V_{CS} で決まります。
 V_{CS} は以下の式で求めることができます。

$$V_{CS} = K \times V_{MULT} (V_{EO} - 0.9 \text{ V})$$

K: MULTIPLIER GAIN

V_{MULT} : MULT 端子電圧

V_{EO} : EO 端子電圧

V_{MULT} には AC 電圧情報を入力します。AC 電圧に伴って AC 電流を制御することで効率を改善します。
また、AC 電圧が 0 V ($V_{MULT} = 0 \text{ V}$) のときの V_{CS} は以下の式で表されます。

$$V_{CS} = K \times V_{MULT} (V_{EO} - 0.9 \text{ V}) + V_{OFFSET} = V_{OFFSET}$$

V_{OFFSET} (30 mV Typ) を追加することで AC 電圧が 0 V ($V_{MULT} = 0 \text{ V}$) のときの OUT 端子の ON 幅が長くなります。
ON 幅が長くなることでダイオードブリッジ出力電圧をよりディスチャージできるようになります。
その結果ダイオードブリッジからの電流供給が止まりにくくなるため AC 電流歪が改善します (Figure 9 参照)。

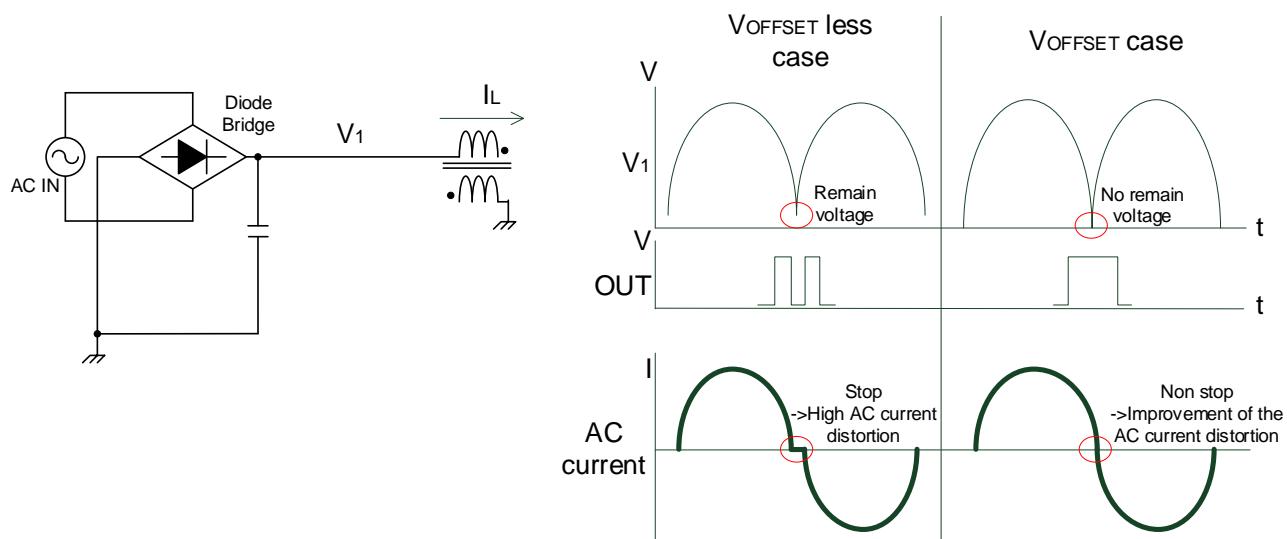


Figure 9. Improvement of the AC Current Distortion

各ブロック動作説明 - 続き

軽負荷状態 ($EO < 0.85 V$) の場合、Multiplier ブロックのゲインは $1/4$ に減少します。ゲインを下げるにと、軽負荷での早期の過電圧保護が防止され、非連続的なスイッチング動作が発生します。この機能は Figure 11.に示すように、軽負荷においてもスイッチングが続けます。

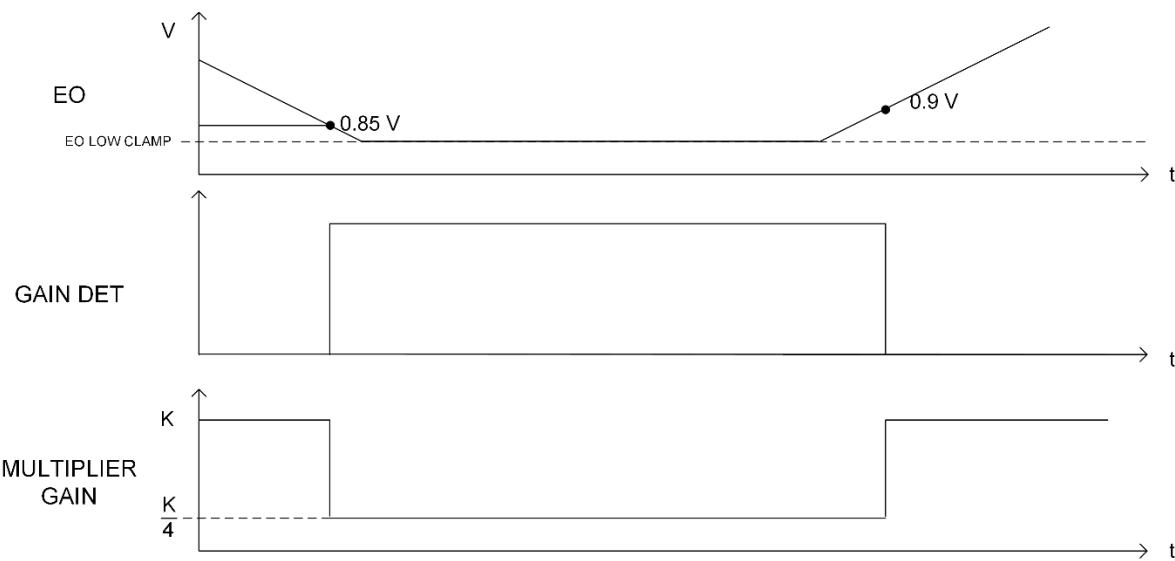


Figure 10. Multiplier Gain

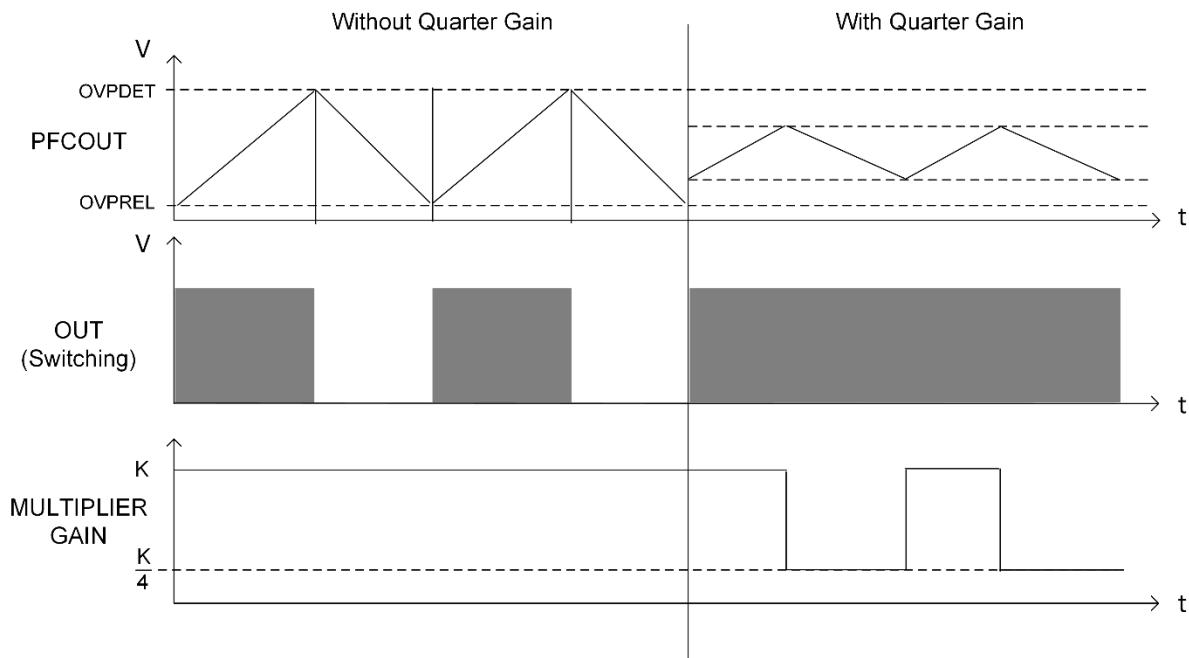


Figure 11. Improvement in Light Load Operation

各ブロック動作説明 - 続き

6 MULT 端子

MULT 端子電圧が V_{BROUT1} (0.8 V Typ) よりも低い状態が t_{BROUT} (160 ms Typ) 以上続くとブラウンアウト機能によりスイッチングを停止します(BD7696FJのみ)。MULT 端子電圧が V_{BROUT2} (0.97 V Typ) よりも高くなるとスイッチングが復帰します。

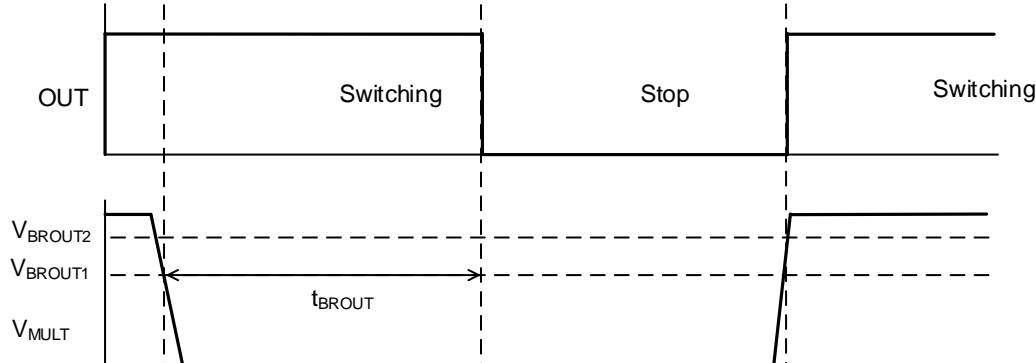


Figure 12. Brown Out

7 CS 端子

通常動作時、ターン OFF は EO 端子と MULT 端子電圧で決まる ON 幅で決定されます。

しかし、 V_{CS} (1.08 V Typ) よりも CS 端子が上昇した場合、過電流保護が動作し、パルスバイパルスでターン OFF します。この保護によって、MOSFETへの過電流を防ぎます。

過電流保護機能は ON 幅を制限する動作になりますので、この保護が動作するような PFC 負荷となった場合は、PFC 出力電圧が低下します。アプリケーション設計時には最低入力電圧で、定格負荷時にこの保護が動作しないように PFC のセンス抵抗を決定してください。

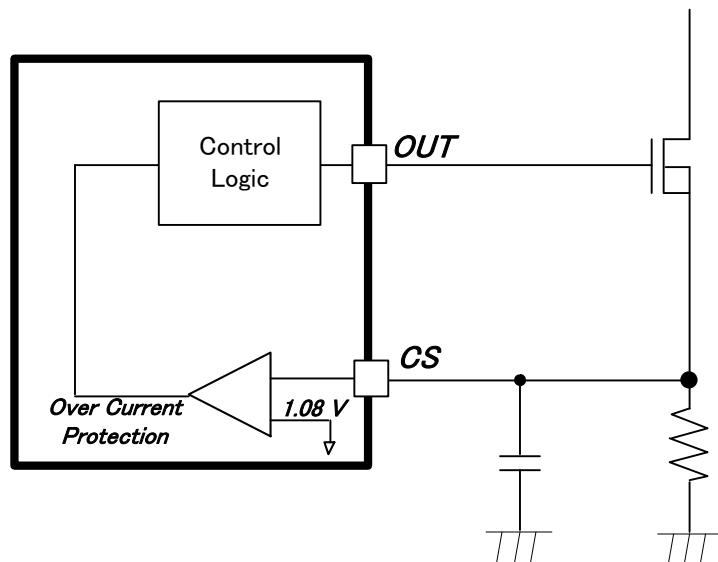


Figure 13. Current Limit

保護回路の動作モード

各保護機能の動作モードを Table 1 に示します。

Table 1. Operation Mode of Each Protective Circuit

項目	内容	保護動作			
		検出方法	検出時動作	解除方法	解除時動作
VCC UVLO	VCC 端子 低電圧保護	VCC < 10 V (Typ) (VCC 下降時)	OUT 動作停止 EO 電圧放電	VCC > 12.5 V (Typ) (VCC 上昇時)	起動動作開始
CS OCP	CS 端子 過電流保護	CS > 1.08 V (Typ) (CS 上昇時)	OUT 動作停止	CS < 1.08 V (Typ) (CS 下降時)	通常動作
VS ショート保護	VS 端子 ショート保護	VS < 0.3 V (Typ) (VS 下降時)	OUT 動作停止 EO 電圧放電	VS > 0.3 V (Typ) (VS 上昇時)	通常動作
IOVP	過電圧保護	EO > 27 μ A (Typ) (EO 上昇時)	OUT 動作停止	EO < 7 μ A (Typ) (EO 下降時)	通常動作
ブラウンアウト (BD7696FJ のみ)	MULT 端子 低電圧保護	MULT < 0.8 V (Typ) (MULT 下降時)	OUT 動作停止 EO 電圧放電	MULT > 0.97 V (Typ) (MULT 上昇時)	通常動作

絶対最大定格 (Ta = 25 °C)

項目	記号	定格	単位	条件
最大電圧 1	V _{MAX1}	-0.3 ~ +40	V	VCC
最大電圧 2	V _{MAX2}	-0.3 ~ +14	V	OUT
最大電圧 3	V _{MAX3}	-0.3 ~ +6.5	V	CS, MULT, VS, EO
最大電流	I _{ZCD}	-10 ~ +10	mA	ZCD 電流
OUT 端子出力ピーク電流 1	I _{OUT1}	-0.5	A	ソース電流
OUT 端子出力ピーク電流 2	I _{OUT2}	+1	A	シンク電流
最高接合部温度	T _{ijmax}	+150	°C	
保存温度範囲	T _{stg}	-55 ~ +150	°C	

注意1: 印加電圧及び動作温度範囲などの絶対最大定格を超えた場合は、劣化または破壊に至る可能性があります。また、ショートモードもしくはオープンモードなど、破壊状態を想定できません。絶対最大定格を超えるような特殊モードが想定される場合、ヒューズなど物理的な安全対策を施して頂けるようご検討お願いします。

注意2: 最高接合部温度を超えるようご使用をされると、チップ温度上昇により、IC本来の性質を悪化させることにつながります。最高接合部温度を超える場合は基板サイズを大きくする、放熱用銅箔面積を大きくする、放熱板を使用するなど、最高接合部温度を超えないよう熱抵抗にご配慮ください。

熱抵抗 (Note 1)

項目	記号	熱抵抗(Typ)		単位
		1層基板 (Note 3)	4層基板 (Note 4)	
SOP-J8				
ジャンクション 一周围温度間熱抵抗	θ _{JA}	149.3	76.9	°C/W
ジャンクション 一パッケージ上面中心間熱特性パラメータ (Note 2)	Ψ _{JT}	18	11	°C/W

(Note 1) JESD51-2A(Still-Air) に準拠。

(Note 2) ジャンクションからパッケージ(モールド部分)上面中心までの熱特性パラメータ。

(Note 3) JESD51-3 に準拠した基板を使用。

(Note 4) JESD51-7 に準拠した基板を使用。

測定基板	基板材	基板寸法
1層	FR-4	114.3 mm x 76.2 mm x 1.57 mm
1層目(表面)銅箔		
銅箔パターン	銅箔厚	
実装ランドパターン +電極引出し用配線	70 μm	

測定基板	基板材	基板寸法
4層	FR-4	114.3 mm x 76.2 mm x 1.6 mm
1層目(表面)銅箔	2層目、3層目(内層)銅箔	4層目(裏面)銅箔
銅箔パターン	銅箔厚	銅箔パターン
実装ランドパターン +電極引出し用配線	70 μm	70 μm

推奨動作条件

項目	記号	最小	標準	最大	単位	条件
電源電圧	VCC	12	15	38	V	VCC 端子電圧
動作温度	Topr	-40	+25	+105	°C	

外付け推奨範囲 (Ta = 25 °C)

項目	記号	範囲	単位
VCC 端子接続容量	C _{VCC}	22 ~	μF

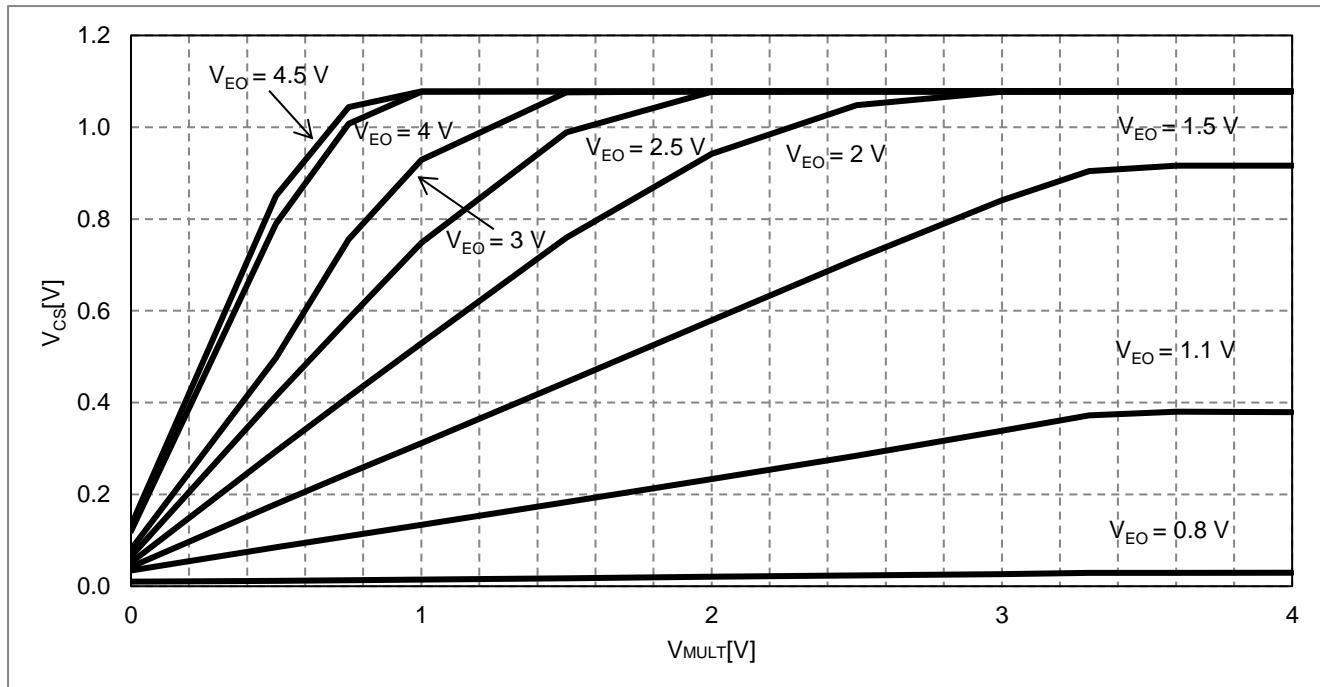
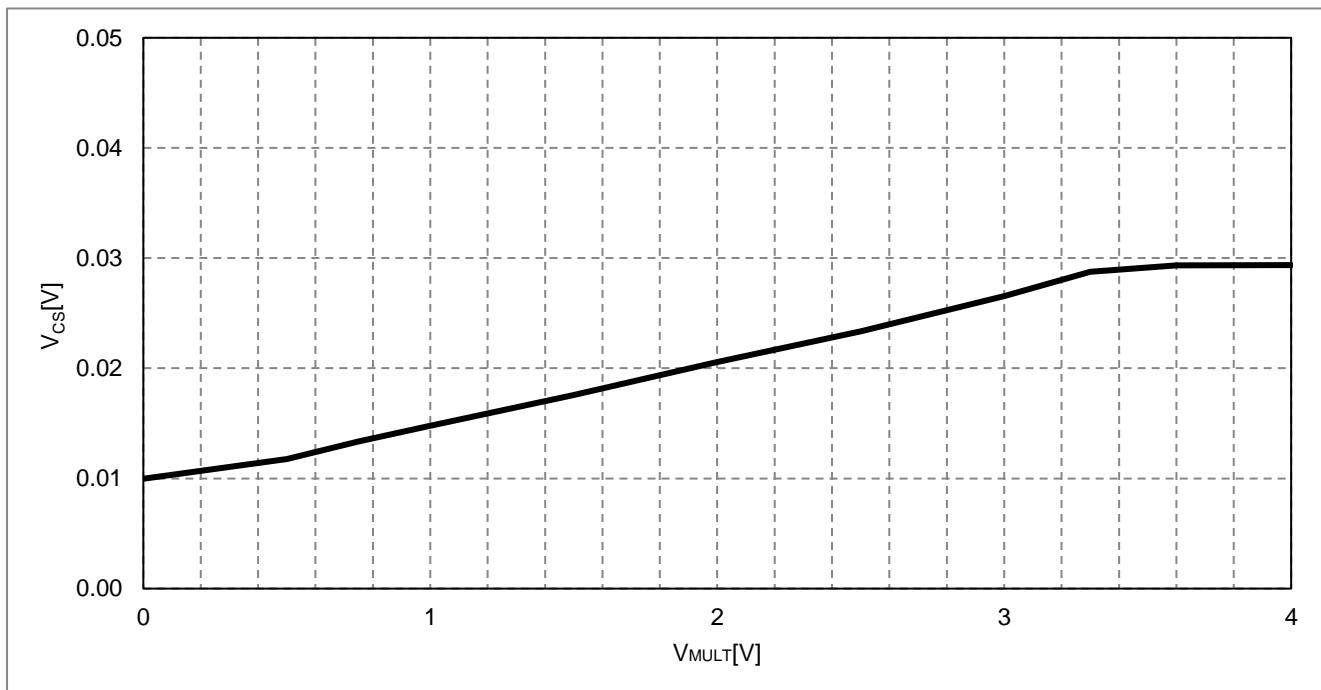
電気的特性 (特に指定のない限り $VCC = 15 V$ 、 $Ta = -40^{\circ}C \sim +105^{\circ}C$)

項目	記号	最小	標準	最大	単位	条件
[回路電流]						
回路電流(ON) 1	I_{ON1}	-	0.60	1.20	mA	$VS = 0 V$
回路電流(ON) 2	I_{ON2}	-	0.95	2.00	mA	50 kHz スイッチング時
回路電流(ON) 3	I_{ON3}	4.5	9.0	13.5	mA	VCC ディスチャージ時 スイッチング停止時
スタートアップ電流	I_{START}	-	60	110	μA	$VCC = 11 V$
[VCC 端子保護機能]						
VCC UVLO 電圧 1	V_{UVLO1}	11.5	12.5	13.5	V	VCC 上昇時
VCC UVLO 電圧 2	V_{UVLO2}	9	10	11	V	VCC 下降時
VCC UVLO ヒステリシス	V_{UVLO3}	2.0	2.5	3.0	V	$V_{UVLO3} = V_{UVLO1} - V_{UVLO2}$
VCC ディスチャージ電圧 1	V_{CC_DIS1}	-	38	-	V	VCC 上昇時
VCC ディスチャージ電圧 2	V_{CC_DIS2}	-	34	-	V	VCC 下降時
[Gm アンプブロック]						
VS 端子プルアップ電流	I_{VS}	-	0.1	0.5	μA	$VS = 0 V$
Gm アンプ基準電圧 1	V_{AMP1}	2.465	2.500	2.535	V	$Ta = 25^{\circ}C$
Gm アンプ基準電圧 2	V_{AMP2}	2.44	-	2.54	V	$Ta = -40^{\circ}C \sim +105^{\circ}C$
Gm アンプ基準電圧 ラインレギュレーション	V_{AMP_LINE}	-	1	10	mV	$VCC = 10 V \sim 38 V$
Gm アンプソース電流	I_{EO_SOURCE}	50	130	200	μA	$VS = 2.3 V$
Gm アンプシンク電流	I_{EO_SINK}	50	130	200	μA	$VS = 2.7 V$
[EO ブロック]						
EO 端子 L 電圧	V_{EOL}	-	0.4	0.8	V	$VS = 2.7 V$
Quarter Gain 検出電圧 1	V_{QGAIN1}	0.80	0.85	-	V	$MULT = 50 mV, CS = 20 mV$
Quarter Gain 検出電圧 2	V_{QGAIN2}	-	0.90	0.95	V	$MULT = 50 mV, CS = 20 mV$
EO ディスチャージ電流	I_{EO}	0.8	1.8	3.0	mA	$VCC = 12 V, EO = 1.0 V$
[MULT ブロック]						
MULT 端子プルアップ電流	I_{MULT}	-	0.1	0.5	μA	$MULT = 0 V$
MULT 端子動作電圧範囲	V_{MULT}	0 ~ 2.5	0 ~ 3.5	-	V	
EO 端子動作電圧範囲	V_{EOD}	0.9 ~ 2.9	0.9 ~ 3.4	-	V	
MULTIPLIER Gain	K	0.33	0.42	0.51	1/V	$MULT = 1 V, EO = 2.5 V$
MULTIPLIER Quarter Gain	K/4	-	0.11	-	1/V	$MULT = 1 V, EO = 0.8 V$
ブラウンアウト検出電圧 1	V_{BROUT1}	0.7	0.8	0.9	V	MULT 端子下降時 BD7696FJ のみ
ブラウンアウト検出電圧 2	V_{BROUT2}	0.87	0.97	1.07	V	MULT 端子上昇時 BD7696FJ のみ
ブラウンアウト検出時間	t_{BROUT}	80	160	320	ms	BD7696FJ のみ
[ZCD ブロック]						
ZCD 端子スレッショルド電圧 1	V_{ZCD1}	0.8	0.9	1.0	V	ZCD 端子上昇時
ZCD 端子スレッショルド電圧 2	V_{ZCD2}	0.55	0.67	0.79	V	ZCD 端子下降時
ZCD 出力遅延時間	t_{ZCD}	-	260	520	ns	
入力クランプ電圧(High)	V_{IH}	6.1	6.7	-	V	$I_{sink} = 3 mA$
入力クランプ電圧(Low)	V_{IL}	-0.3	-0.1	-	V	$I_{source} = -3 mA$
リスタートタイム	t_{REST}	15	30	45	μs	
[保護ブロック]						
VS ショート保護検出電圧	V_{SHORT}	0.2	0.3	0.4	V	
VS ショート保護検出時間	t_{VS_SH}	50	150	300	μs	
IOVP 検出電流 1	$I_{OVPDET1}$	19.5	27.0	30.5	μA	I_{EO_SINK} 上昇時 $Ta = 25^{\circ}C$
IOVP 検出電流 2	$I_{OVPDET2}$	-	7	-	μA	I_{EO_SINK} 下降時 $Ta = 25^{\circ}C$

電気的特性 (特に指定のない限り $VCC = 15 V$ 、 $Ta = -40^{\circ}C \sim +105^{\circ}C$) - 続き

項目	記号	最小	標準	最大	単位	条件
[CS ブロック]						
CS 端子スレッショルド電圧	V_{CS}	1.00	1.08	1.16	V	
出力遅延時間	t_{DELAY}	-	150	300	ns	
CS 端子プルアップ電流	I_{CS}	-	0.15	1.00	μA	$CS = 0 V$
CS オフセット電圧	V_{OFFSET}	-	30	-	mV	$MULT = 0 V$
[OUT ブロック]						
OUT 端子 H 電圧	V_{POUTH}	9.0	10.2	11.4	V	$OUT = -20 mA$
OUT 端子 L 電圧	V_{POUTL}	-	-	0.8	V	$OUT = +20 mA$
立ち上がり時間	tr	-	50	-	ns	OUT 負荷容量 = 1000 pF $OUTL$ 電圧 ~ 5 V
立ち下がり時間	tf	-	50	-	ns	OUT 負荷容量 = 1000 pF $OUTH$ 電圧 ~ 5 V
OUT 端子 プルダウン抵抗	R_{PDOUT}	50	100	150	k Ω	

特性データ
(参考データ)

Figure 14. V_{CS} vs V_{MULT} Figure 15. V_{CS} vs V_{MULT} at Quarter Gain Operation

特性データ - 続き

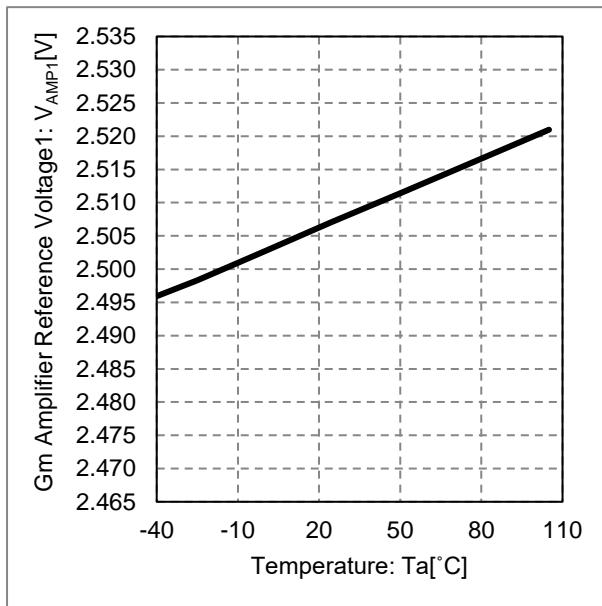


Figure 16. Gm Amplifier Reference Voltage1 vs Temperature

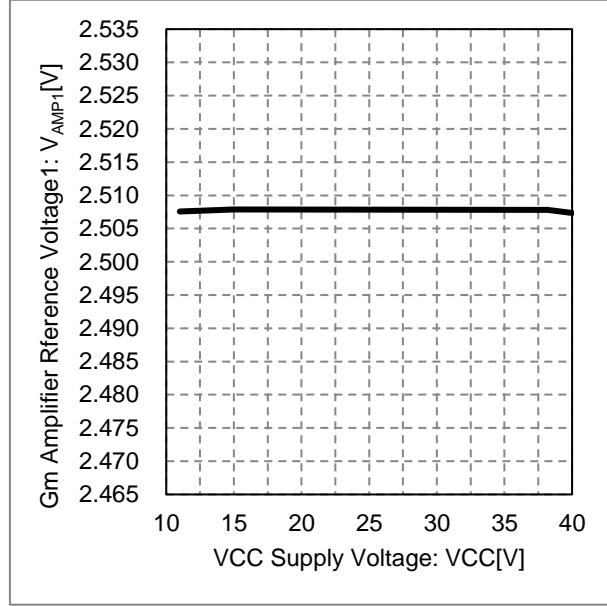


Figure 17. Gm Amplifier Reference Voltage1 vs VCC

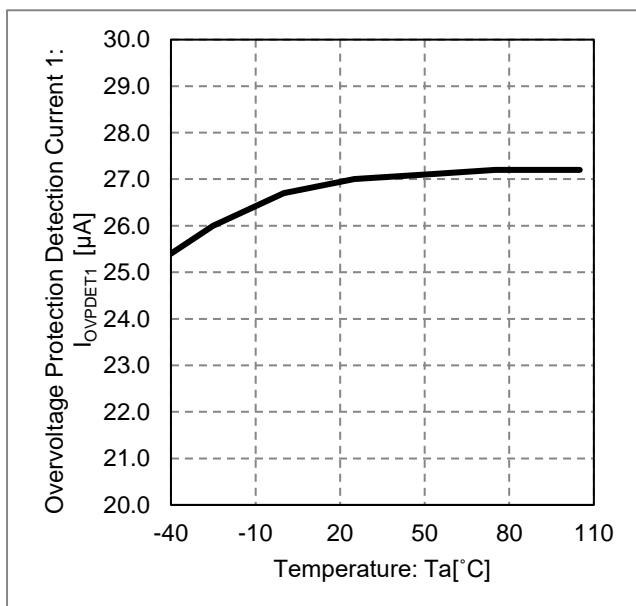


Figure 18. Overvoltage Protection Detection Current 1 vs Temperature

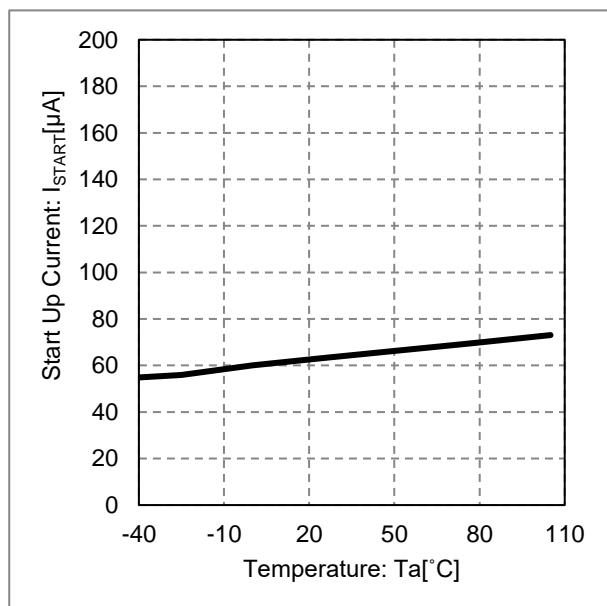


Figure 19. Start Up Current vs Temperature

特性データ - 続き

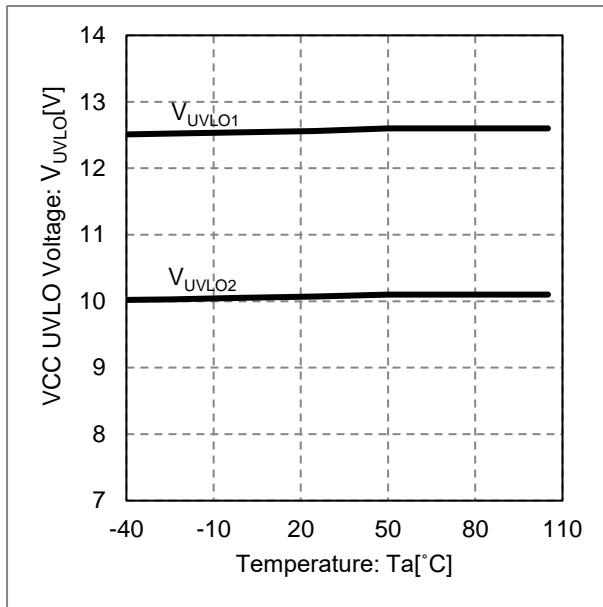


Figure 20. VCC UVLO Voltage vs Temperature

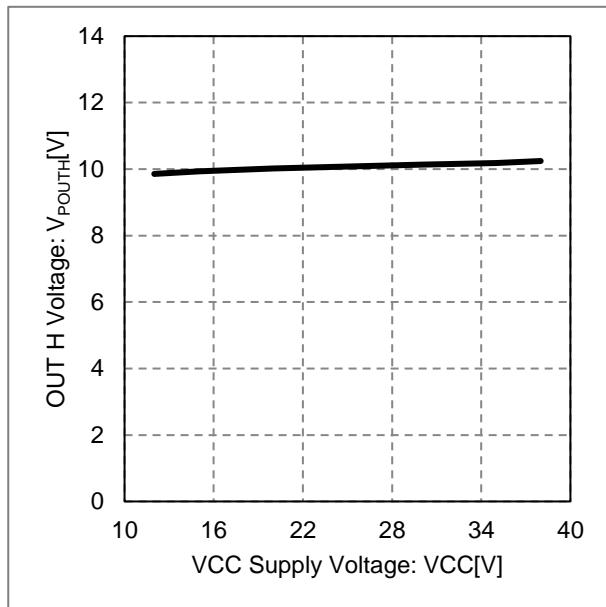


Figure 21. OUT H Voltage vs VCC

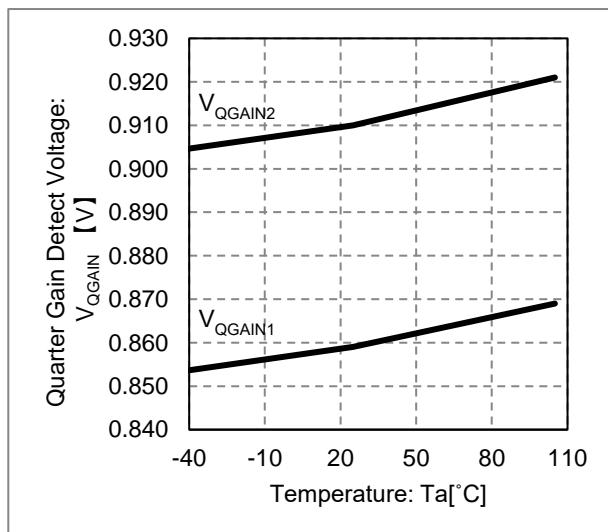


Figure 22. Quarter Gain Detect Voltage vs Temperature

応用回路例

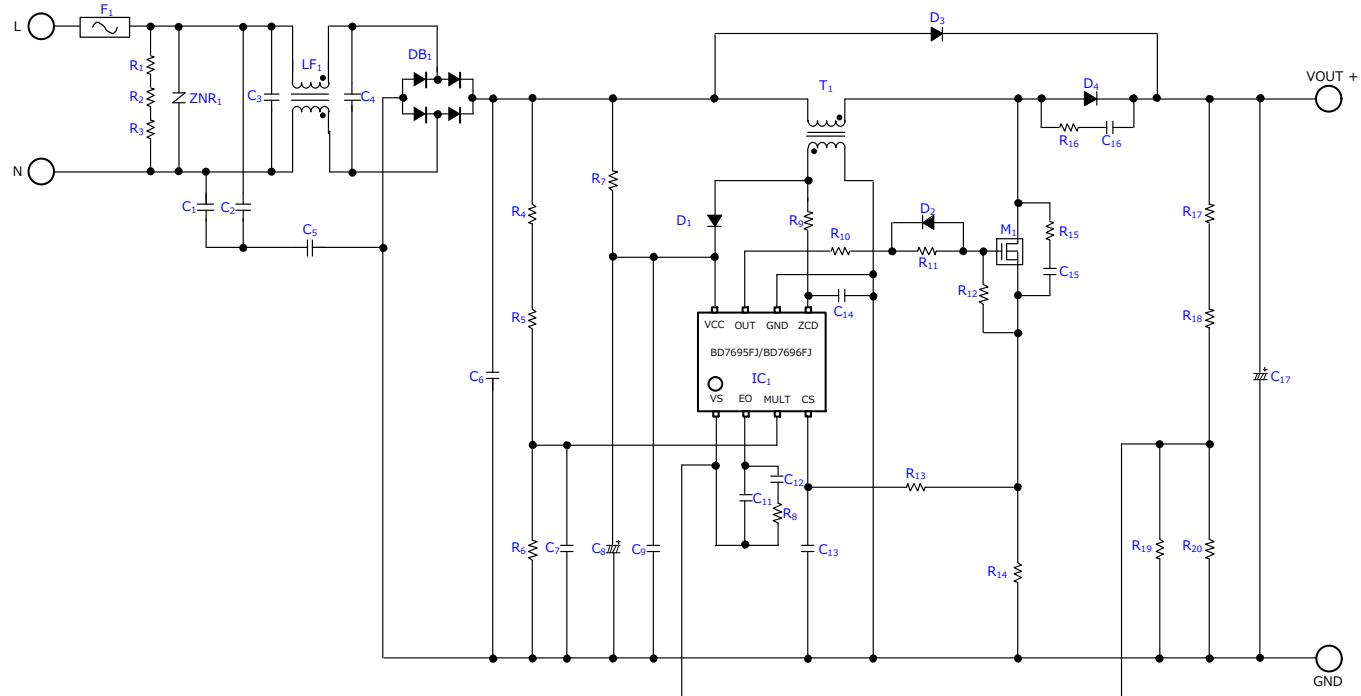


Figure 23. Application Example

1 出力電圧設定

出力電圧は VS 端子へ接続されるフィードバック抵抗にて決まります。

$$V_{OUT} = \left(1 + \frac{(R_{17} + R_{18})}{(R_{19} // R_{20})}\right) \times V_{AMP} = \left(1 + \frac{1582 \text{ k}\Omega}{10 \text{ k}\Omega}\right) \times 2.5 \text{ V} = 398 \text{ [V]}$$

$R_{17} + R_{18}$: 出力フィードバックの上側抵抗値

$R_{19} // R_{20}$: 出力フィードバックの下側抵抗値

V_{AMP} : Gm アンプ基準電圧 1

2 インダクタンスの算出

$V_{OUT} = 400 \text{ V}$ 、出力電力=200 W の場合の参考値

$L = 250 \text{ [\mu H]}$

L を大きく設定したほうが THD は下がりますが、部品サイズは大きくなります。

3 VCC の外付け設定

VCC 端子にコンデンサを付けることによってスイッチング時における VCC 電圧変動を少なくできます。

VCC コンデンサには耐圧 50 V 以上、22 μF 以上の電界コンデンサをお勧めいたします。

また、起動抵抗とトランジスの補助巻線から VCC を生成する場合、起動時間、保護検出時の VCC 電圧評価を実機にてご確認ください。起動後にスイッチング停止状態になると IC の消費電流が減りますので起動抵抗によって VCC 電圧が上昇する場合があります。VCC 電圧ディスチャージ機能により VCC の過電圧破壊を防止します。

この機能により起動抵抗値を小さくすることができます、起動時間を速くすることができます。

基板設計上の注意

部品配置について

Figure 24 破線内の部品についてはなるべく IC 直近に配置してください。また、スイッチングラインやインダクタ、DRAIN など等の大電流ラインとの干渉を避ける部品配置をしてください。

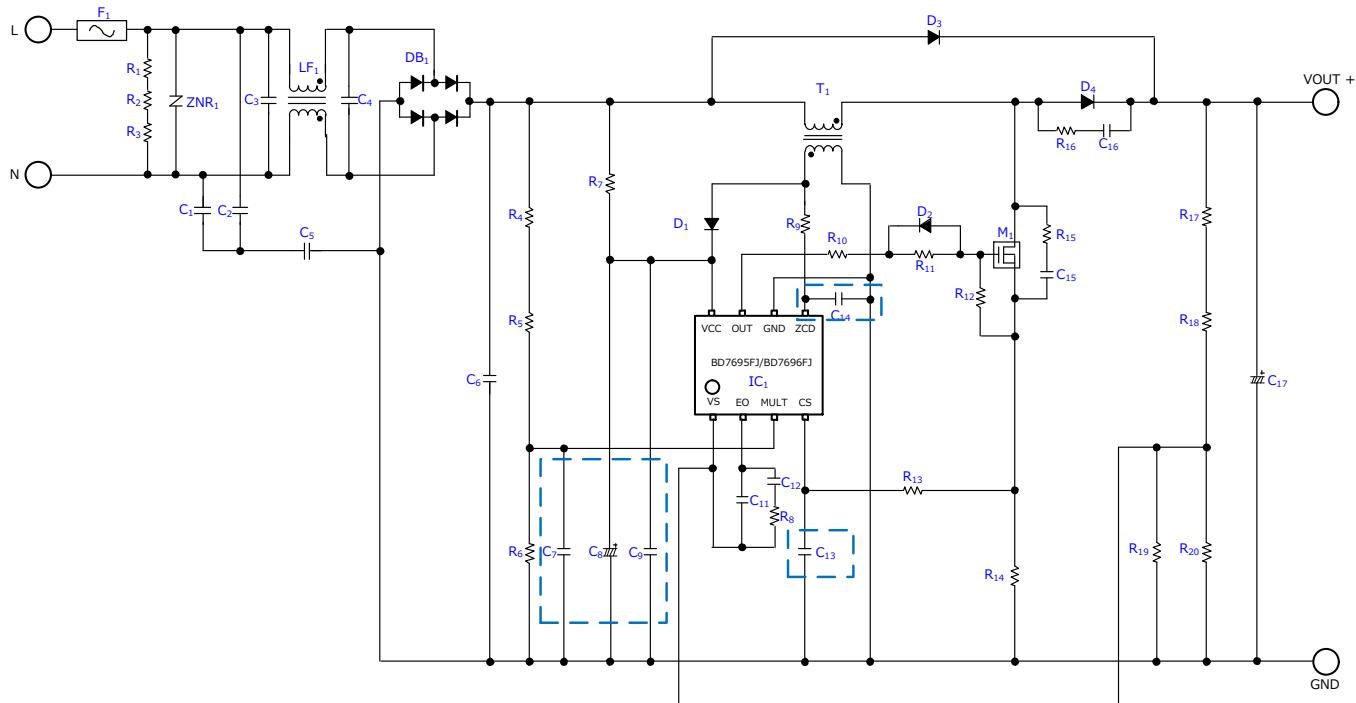


Figure 24. Parts Placement

GND 配線引き回しについて

Figure 25 の赤線は大電流が流れる GND 配線になります。各ライン独立配線し、太く短く引いてください。青線は IC の GND になります。IC の GND 及び IC 周辺部品の GND を共通にしてください。

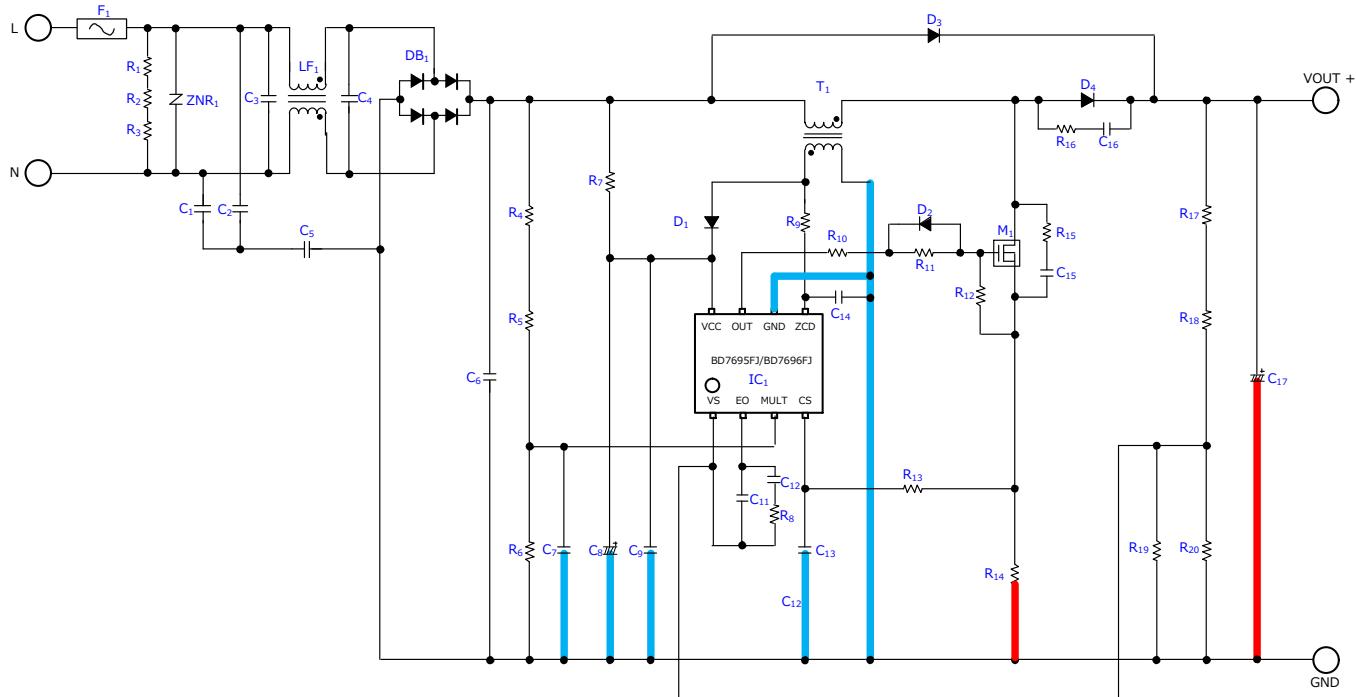


Figure 25. GND Line Layout

基板設計上の注意 - 続き

大電流ラインについて

Figure 26 の赤線部分は回路電流が多く流れます。赤線部分は太く短く引いてください。また、ノイズが大きいラインにもなるので近くに IC やインピーダンスが高いラインの引き回しは避けてください。

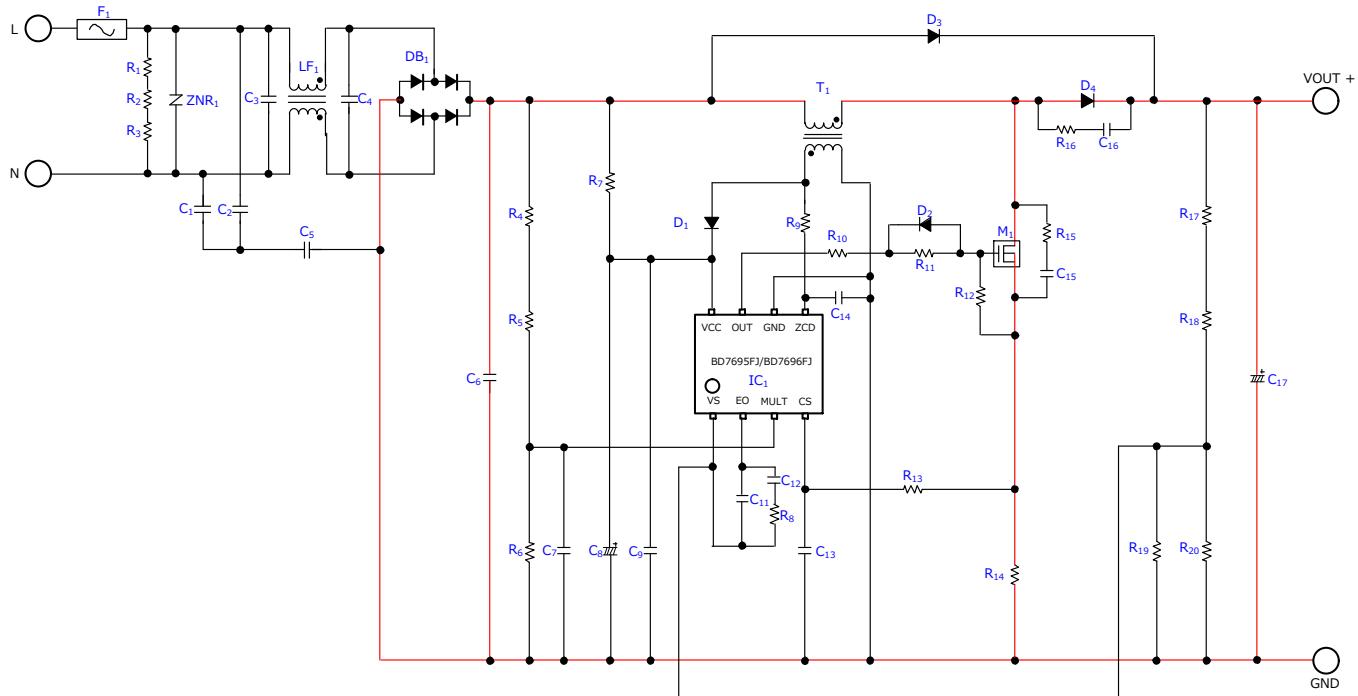
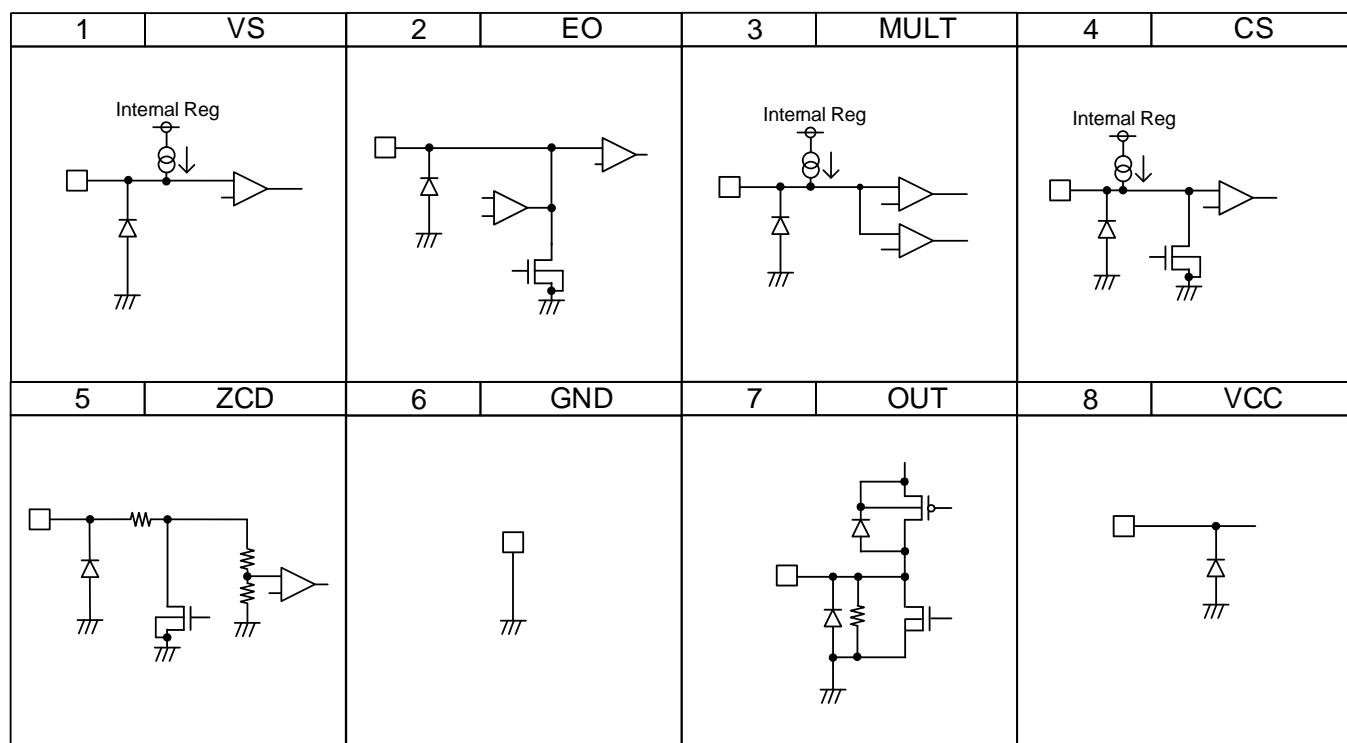


Figure 26. High Current Line Layout

入出力等価回路図



使用上の注意

1. 電源の逆接続について

電源コネクタの逆接続により LSI が破壊する恐れがあります。逆接続破壊保護用として外部に電源と LSI の電源端子間にダイオードを入れなどの対策を施してください。

2. 電源ラインについて

基板パターンの設計においては、電源ラインの配線は、低インピーダンスになるようにしてください。グラウンドラインについても、同様のパターン設計を考慮してください。また、LSI のすべての電源端子について電源ーグラウンド端子間にコンデンサを挿入するとともに、電解コンデンサ使用の際は、低温で容量低下が起こることなど使用するコンデンサの諸特性に問題ないことを十分ご確認のうえ、定数を決定してください。

3. グラウンド電位について

機能的に負電位を入出力する端子を除き、グラウンド端子の電位はいかなる動作状態においても、最低電位になるようしてください。また実際に過渡現象を含め、グラウンド端子、負電位入出力端子以外の端子がグラウンド以下の電圧にならないようしてください。

4. グラウンド配線パターンについて

小信号グラウンドと大電流グラウンドがある場合、大電流グラウンドパターンと小信号グラウンドパターンは分離し、パターン配線の抵抗分と大電流による電圧変化が小信号グラウンドの電圧を変化させないように、セットの基準点で 1 点アースすることを推奨します。外付け部品のグラウンドの配線パターンも変動しないよう注意してください。グラウンドラインの配線は、低インピーダンスになるようにしてください。

5. 推奨動作条件について

推奨動作条件で規定される範囲で IC の機能・動作を保証します。また、特性値は電気的特性で規定される各項目の条件下においてのみ保証されます。

6. ラッシュカレントについて

IC 内部論理回路は、電源投入時に論理不定状態で、瞬間にラッシュカレントが流れる場合がありますので、電源カッピング容量や電源、グラウンドパターン配線の幅、引き回しに注意してください。

7. セット基板での検査について

セット基板での検査時に、インピーダンスの低い端子にコンデンサを接続する場合は、IC にストレスがかかる恐れがあるので、1 工程ごとに必ず放電を行ってください。静電気対策として、組立工程にはアースを施し、運搬や保存の際には十分ご注意ください。また、検査工程での治具への接続をする際には必ず電源を OFF にしてから接続し、電源を OFF にしてから取り外してください。

8. 端子間ショートと誤装着について

プリント基板に取り付ける際、IC の向きや位置ずれに十分注意してください。誤って取り付けた場合、IC が破壊する恐れがあります。また、出力と電源及びグラウンド間、出力間に異物が入るなどしてショートした場合についても破壊の恐れがあります。

9. 未使用の入力端子の処理について

CMOS ランジスタの入力は非常にインピーダンスが高く、入力端子をオープンにすることで論理不定の状態になります。これにより内部の論理ゲートの p チャネル、n チャネルランジスタが導通状態となり、不要な電源電流が流れます。また 論理不定により、想定外の動作をすることがあります。よって、未使用の端子は特に仕様書上でうたわれていない限り、適切な電源、もしくはグラウンドに接続するようにしてください。

使用上の注意 - 続き

10. 各入力端子について

本 IC はモノリシック IC であり、各素子間に素子分離のための P+アイソレーションと、P 基板を有しています。この P 層と各素子の N 層とで P-N 接合が形成され、各種の寄生素子が構成されます。例えば、下図のように、抵抗とトランジスタが端子と接続されている場合、

- 抵抗では、GND > (端子 A)の時、トランジスタ(NPN)では GND > (端子 B)の時、P-N 接合が寄生ダイオードとして動作します。
- また、トランジスタ(NPN)では、GND > (端子 B)の時、前述の寄生ダイオードと近接する他の素子の N 層によって寄生の NPN トランジスタが動作します。

IC の構造上、寄生素子は電位関係によって必然的にできます。寄生素子が動作することにより、回路動作の干渉を引き起こし、誤動作、ひいては破壊の原因ともなり得ます。したがって、入出力端子に GND(P 基板)より低い電圧を印加するなど、寄生素子が動作するような使い方をしないよう十分に注意してください。アプリケーションにおいて電源端子と各端子電圧が逆になった場合、内部回路または素子を損傷する可能性があります。例えば、外付けコンデンサに電荷がチャージされた状態で、電源端子が GND にショートされた場合などです。また、電源端子直列に逆流防止のダイオードもしくは各端子と電源端子間にバイパスのダイオードを挿入することを推奨します。

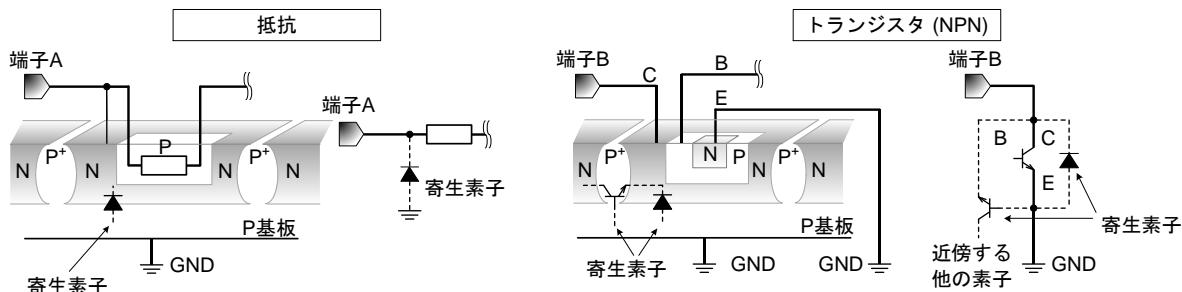


Figure 27. モノリシック IC 構造例

11. セラミック・コンデンサの特性変動について

外付けコンデンサに、セラミック・コンデンサを使用する場合、直流バイアスによる公称容量の低下、及び温度などによる容量の変化を考慮のうえ、定数を決定してください。

12. 温度保護回路について

IC を熱破壊から防ぐための温度保護回路を内蔵しております。最高接合部温度内でご使用いただきますが、万が一最高接合部温度を超えた状態が継続すると、温度保護回路が動作し出力パワー素子が OFF します。その後チップ温度 T_J が低下すると回路は自動で復帰します。なお、温度保護回路は絶対最大定格を超えた状態での動作となりますので、温度保護回路を使用したセット設計などは、絶対に避けてください。

13. 過電流保護回路について

出力には電流能力に応じた過電流保護回路が内部に内蔵されているため、負荷ショート時には IC 破壊を防止しますが、この保護回路は突発的な事故による破壊防止に有効なもので、連続的な保護回路動作、過渡時でのご使用に対応するものではありません。

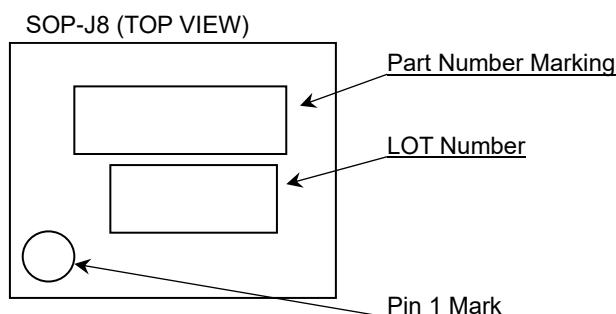
発注形名情報

B	D	7	6	9	x	F	J	-	E2
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

x: Brown Out
5: None-
6: With

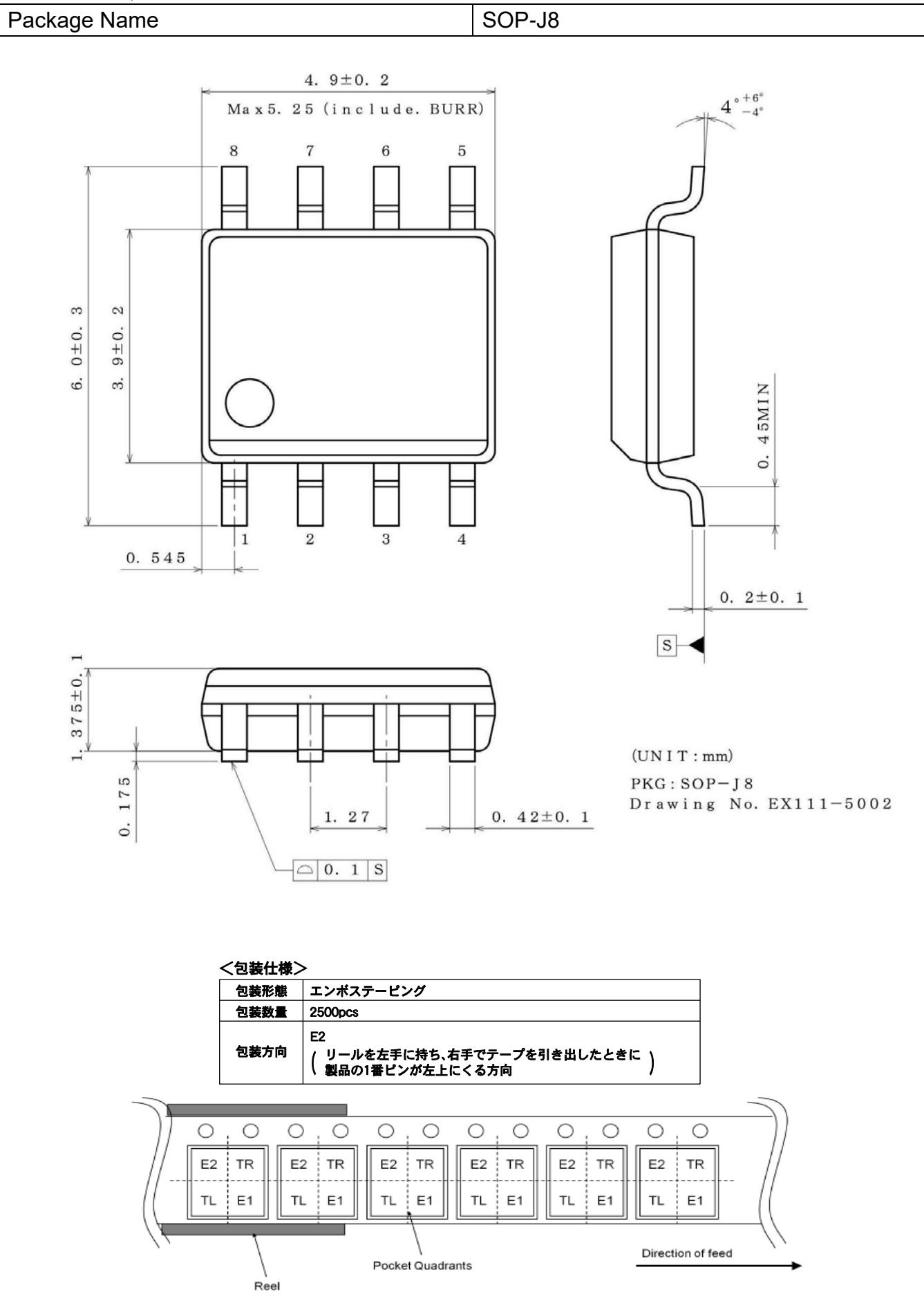
パッケージ
FJ: SOP-J8
E2: リール状エンボステーピング

標印図



Part Number Marking	Product name
D7695	BD7695FJ-E2
D7696	BD7696FJ-E2

外形寸法図と包装・フォーミング仕様



改訂履歴

日付	版	変更内容
2022.07.15	001	新規作成

ご注意

ローム製品取扱い上の注意事項

1. 本製品は一般的な電子機器（AV 機器、OA 機器、通信機器、家電製品、アミューズメント機器等）への使用を意図して設計・製造されております。したがいまして、極めて高度な信頼性が要求され、その故障や誤動作が人の生命、身体への危険もしくは損害、又はその他の重大な損害の発生に関わるような機器又は装置（医療機器^(Note 1)、輸送機器、交通機器、航空宇宙機器、原子力制御装置、燃料制御、カーアクセサリを含む車載機器、各種安全装置等）（以下「特定用途」という）への本製品のご使用を検討される際は事前にローム営業窓口までご相談くださいますようお願い致します。ロームの文書による事前の承諾を得ることなく、特定用途に本製品を使用したことによりお客様又は第三者に生じた損害等に関し、ロームは一切その責任を負いません。

(Note 1) 特定用途となる医療機器分類

日本	USA	EU	中国
CLASS III	CLASS III	CLASS II b	III類
CLASS IV		CLASS III	

2. 半導体製品は一定の確率で誤動作や故障が生じる場合があります。万が一、かかる誤動作や故障が生じた場合であっても、本製品の不具合により、人の生命、身体、財産への危険又は損害が生じないように、お客様の責任において次の例に示すようなフェールセーフ設計など安全対策をお願い致します。
 - ①保護回路及び保護装置を設けてシステムとしての安全性を確保する。
 - ②冗長回路等を設けて单一故障では危険が生じないようにシステムとしての安全を確保する。
3. 本製品は、一般的な電子機器に標準的な用途で使用されることを意図して設計・製造されており、下記に例示するような特殊環境での使用を配慮した設計はなされておりません。したがいまして、下記のような特殊環境での本製品のご使用に関し、ロームは一切その責任を負いません。本製品を下記のような特殊環境でご使用される際は、お客様におかれまして十分に性能、信頼性等をご確認ください。
 - ①水・油・薬液・有機溶剤等の液体中でのご使用
 - ②直射日光・屋外暴露、塵埃中でのご使用
 - ③潮風、Cl₂、H₂S、NH₃、SO₂、NO₂ 等の腐食性ガスの多い場所でのご使用
 - ④静電気や電磁波の強い環境でのご使用
 - ⑤発熱部品に近接した取付け及び当製品に近接してビニール配線等、可燃物を配置する場合。
 - ⑥本製品を樹脂等で封止、コーティングしてのご使用。
 - ⑦はんだ付けの後に洗浄を行わない場合(無洗浄タイプのフラックスを使用される場合は除く。ただし、残渣については十分に確認をお願いします。)又は、はんだ付け後のフラックス洗浄に水又は水溶性洗浄剤をご使用の場合
 - ⑧本製品が結露するような場所でのご使用。
4. 本製品は耐放射線設計はなされておりません。
5. 本製品単体品の評価では予測できない症状・事態を確認するためにも、本製品のご使用にあたってはお客様製品に実装された状態での評価及び確認をお願い致します。
6. パルス等の過渡的な負荷（短時間での大きな負荷）が加わる場合は、お客様製品に本製品を実装した状態で必ずその評価及び確認の実施をお願い致します。また、定常時での負荷条件において定格電力以上の負荷を印加されると、本製品の性能又は信頼性が損なわれるおそれがあるため必ず定格電力以下でご使用ください。
7. 電力損失は周囲温度に合わせてディレーティングしてください。また、密閉された環境下でご使用の場合は、必ず温度測定を行い、最高接合部温度を超えていない範囲であることをご確認ください。
8. 使用温度は納入仕様書に記載の温度範囲内であることをご確認ください。
9. 本資料の記載内容を逸脱して本製品をご使用されたことによって生じた不具合、故障及び事故に関し、ロームは一切その責任を負いません。

実装及び基板設計上の注意事項

1. ハロゲン系（塩素系、臭素系等）の活性度の高いフラックスを使用する場合、フラックスの残渣により本製品の性能又は信頼性への影響が考えられますので、事前にお客様にてご確認ください。
2. はんだ付けは、表面実装製品の場合リフロー方式、挿入実装製品の場合フロー方式を原則とさせて頂きます。なお、表面実装製品をフロー方式での使用をご検討の際は別途ロームまでお問い合わせください。
その他、詳細な実装条件及び手はんだによる実装、基板設計上の注意事項につきましては別途、ロームの実装仕様書をご確認ください。

応用回路、外付け回路等に関する注意事項

1. 本製品の外付け回路定数を変更してご使用になる際は静特性のみならず、過渡特性も含め外付け部品及び本製品のバラツキ等を考慮して十分なマージンをみて決定してください。
2. 本資料に記載された応用回路例やその定数などの情報は、本製品の標準的な動作や使い方を説明するためのもので、実際に使用する機器での動作を保証するものではありません。したがいまして、お客様の機器の設計において、回路やその定数及びこれらに関連する情報を使用する場合には、外部諸条件を考慮し、お客様の判断と責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様又は第三者に生じた損害に関し、ロームは一切その責任を負いません。

静電気に対する注意事項

本製品は静電気に対して敏感な製品であり、静電放電等により破壊することがあります。取り扱い時や工程での実装時、保管時において静電気対策を実施のうえ、絶対最大定格以上の過電圧等が印加されないようにご使用ください。特に乾燥環境下では静電気が発生しやすくなるため、十分な静電対策を実施ください。(人体及び設備のアース、帯電物からの隔離、イオナイザの設置、摩擦防止、温湿度管理、はんだごてのこて先のアース等)

保管・運搬上の注意事項

1. 本製品を下記の環境又は条件で保管されますと性能劣化やはんだ付け性等の性能に影響を与えるおそれがありますのでこのような環境及び条件での保管は避けてください。
 - ①潮風、Cl₂、H₂S、NH₃、SO₂、NO₂等の腐食性ガスの多い場所での保管
 - ②推奨温度、湿度以外での保管
 - ③直射日光や結露する場所での保管
 - ④強い静電気が発生している場所での保管
2. ロームの推奨保管条件下におきましても、推奨保管期限を経過した製品は、はんだ付け性に影響を与える可能性があります。推奨保管期限を経過した製品は、はんだ付け性を確認したうえでご使用頂くことを推奨します。
3. 本製品の運搬、保管の際は梱包箱を正しい向き（梱包箱に表示されている天面方向）で取り扱いください。天面方向が遵守されずに梱包箱を落下させた場合、製品端子に過度なストレスが印加され、端子曲がり等の不具合が発生する危険があります。
4. 防湿梱包を開封した後は、規定時間内にご使用ください。規定時間を経過した場合はベーク処置を行ったうえでご使用ください。

製品ラベルに関する注意事項

本製品に貼付されている製品ラベルに2次元バーコードが印字されていますが、2次元バーコードはロームの社内管理のみを目的としたものです。

製品廃棄上の注意事項

本製品を廃棄する際は、専門の産業廃棄物処理業者にて、適切な処置をしてください。

外国為替及び外国貿易法に関する注意事項

本製品は外国為替及び外国貿易法に定める規制貨物等に該当するおそれがありますので輸出する場合には、ロームにお問い合わせください。

知的財産権に関する注意事項

1. 本資料に記載された本製品に関する応用回路例、情報及び諸データは、あくまでも一例を示すものであり、これらに関する第三者の知的財産権及びその他の権利について権利侵害がないことを保証するものではありません。
2. ロームは、本製品とその他の外部素子、外部回路あるいは外部装置等（ソフトウェア含む）との組み合わせに起因して生じた紛争に関して、何ら義務を負うものではありません。
3. ロームは、本製品又は本資料に記載された情報について、ロームもしくは第三者が所有又は管理している知的財産権 その他の権利の実施又は利用を、明示的にも黙示的にも、お客様に許諾するものではありません。ただし、本製品を通常の用法にて使用される限りにおいて、ロームが所有又は管理する知的財産権を利用されることを妨げません。

その他の注意事項

1. 本資料の全部又は一部をロームの文書による事前の承諾を得ることなく転載又は複製することを固くお断り致します。
2. 本製品をロームの文書による事前の承諾を得ることなく、分解、改造、改変、複製等しないでください。
3. 本製品又は本資料に記載された技術情報を、大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用、あるいはその他軍事用途目的で使用しないでください。
4. 本資料に記載されている社名及び製品名等の固有名詞は、ローム、ローム関係会社もしくは第三者の商標又は登録商標です。

一般的な注意事項

1. 本製品をご使用になる前に、本資料をよく読み、その内容を十分に理解されるようお願い致します。本資料に記載される注意事項に反して本製品をご使用されたことによって生じた不具合、故障及び事故に関し、ロームは一切その責任を負いませんのでご注意願います。
2. 本資料に記載の内容は、本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。本製品のご購入及びご使用に際しては、事前にローム営業窓口で最新の情報をご確認ください。
3. ロームは本資料に記載されている情報は誤りがないことを保証するものではありません。万が一、本資料に記載された情報の誤りによりお客様又は第三者に損害が生じた場合においても、ロームは一切その責任を負いません。